街の身近な健康相談 vol.26

漢方を扱う「街の薬屋さん」は、誰でも気軽に行ける健康相談スポット。今回は、白糠町で漢方相談を行っている「北海道中医薬研究会」の美馬雅俊さんに話を伺いました。

父と母が築いた道 大切な思いを引き継ぐ

白糠町の「みま薬局」は、取締役である美馬雅俊さんの両親が、平成3年に開業した店だ。美馬さんが生まれたのはその翌年。両親とも薬剤師で、幼い頃から地域の人たちの相談に親身に応じる姿を見て育った。ふたりの姿に憧れ大学へ進学し、薬学部を卒業。5年前、二代目として店を継いだ。

「最初は母が先に漢方の世界に入り、私も中医学（中国の伝統医学）を勉強するようになったんです」。2年前に国際中医専門員（中国政府発行資格）を取得。西洋医学と東洋医学、両方の目線を持ち合わせていることが強みだ。

「例えば血圧が高ければ、西洋医学は症状を抑える薬を処方します。一方で中医学は、血流が悪い、血管が硬くなっているなど、原因からカバーして体を整えていく。そこにとても魅力を感じます。西洋医学と中医学には、それぞれ良さがあり、それぞれのいいところを生かすことが大切と私は考えています」。食養生や生活習慣の改善も、中医学では重要なポイント。知識を生かし、体の基盤を整える手助けをしたいと話す。

「不易流行（ふえきりゅうこう）」をモットーに進化する漢方相談

令和4年に店舗を新築移転し、店内に漢方相談用スペースを新たに設けたことで、お客さまの悩みに対してのアドバイスをじっくりできるようになった。変わらない本質的なものの中に、新しいものを取り入れていく。父から受け継いだ「不易流行（ふえきりゅうこう）」の考え方だ。「みま薬局が変えてはいけないものは、地域に根差す姿勢と、健康相談です」。どんな悩みも気軽に相談できる、「ファーストチョイス」の薬局づくりを目標に掲げる。

実は美馬さんには、難病指定の潰瘍性大腸炎という持病がある。「現在、病院での治療に加えて、中医学の知恵を生かしながら持病への対応をしています。小さな不調でも早めに相談してもらえれば、大きな病気を未然に防ぐ手助けができるかもしれない。それも相談に力を入れる理由の一つです」と、ほほ笑む。最近は眠りに関する相談をよく受けるという。生活リズムの見直しとともに薦めているのが、気持ちを落ち着かせてくれる健康茶「イスクラシベリア人参茶」だ。会員店には、症状に合う中成薬はもちろん健康茶もそろっている。不調を感じたら、早めに気軽に相談してみよう。

みま薬局

登録販売者、国際中医専門員。「“元気で長生き”をお手伝いする地域に根差した相談薬局です。小さな悩みもご相談ください」。昭和店（釧路市）もあり

白糠町本店。相談コーナーもある

白糠郡白糠町西庶路東1条南2丁目1-3
電話：01547･5･3793
営業時間：8:30～19:30、土曜～15:00
定休日：日曜･祝日
https://www.mima-pharmacy.com/

北海道中医薬研究会について

北海道中医薬研究会は、中医学の理論と臨床経験に基づいて、地域医療への貢献を目指す団体。道内各地に全41店舗の会員店があります。

道東地区10店舗をはじめ、道内各地の会員店の詳細は、左のQRコードにアクセスすると見ることができます
https://hokkaido-kanpo.com/
北海道中医薬研究会

ニーハオ･シンシン

中医薬研究会のマスコット･冠元（かんげん）です。今年で21歳。実は孫も2頭います

パンダ保護養育活動

日本中医薬研究会は、中国･成都のジャイアントパンダ繁殖研究基地にいる「冠元」の養育費寄付を通して、自然保護活動を行っています